

横山広美研究室・東大 <https://member.ipmu.jp/hiromi.yokoyama/index.html>

# 進学を希望する方へ 2027年度版

# 科学技術と社会の関係を研究します

- 生成AIのような新規技術は社会全体に大きなインパクトを与え、社会そのものを変化させていきます。科学技術社会論、科学社会学、サイエンスコミュニケーションといった研究領域では、社会の人々が科学技術にどのような期待や信頼を寄せ、あるいは拒絶しながら、社会を変動させていくのか、望ましい科学技術と社会の関係を研究します。
  - 本研究室は現在進行形の社会問題を扱います。
  - テーマがおおよそ決まったら面談が可能です。ただし面談は出願前に限られています。
-

# 研究の進め方

## テーマを決定

学術的に意味があるテーマか（社会の目線に立っているか）が重要です。

そのため、社会的にジレンマ状態にある問題を探すことをお勧めします。ジレンマがある内容は、議論の価値があります。一方で誰もが認める望ましい社会はテーマになりえません。つまり社会的課題のないテーマは、本研究室での研究にはなりません。

## フレームを選ぶ

過去の理論から、新しいテーマを論じるにふさわしい理論を探します。科学技術社会論の理論は、古いものが多く、論文にそのまま使うことは困難な場合が多いため、分野を横断して、組み合わせる理論やよりふさわしい理論を探します。

一方で、科学技術社会論での学位取得するには、基礎を学んでおく必要があります。また論文のテーマもこれを起点にスタートします。教科書で勉強をした後、英語論文を大量に読んで感性を磨きます。

## リサーチクエスチョンを設定

論文の核心となるリサーチクエスチョンを設定します。

手法の決定前にほぼ決める必要がありますが、結果を分析した後もこれに立ち戻り、より適切なRQを磨いていきます。

修士の間は、適切なRQを決めるのに1年かかるのが通常です。

## 手法を決定

フレームを用いた調査を設計します。

本研究室は主に量的研究を扱っています。社会調査のデータを用いて分析をすることが多いですが、生成AIの時代であり、新しいタイプのデータ収集も歓迎です。

分析は基本的な統計を使いますが、理系の研究者との共同研究で、機械学習等を使うこともあります。

インタビュー等の質的研究もサポートしています。

# 東京大学 情報学環 文人コース

- 本研究室では、東大情報学環・文化人間情報学コースから修士、博士の学生を受け入れています。入学希望の方は、情報学環文人コース、研究室説明会にご参加ください。
- 1人1テーマでそれぞれが修士論文、博士論文研究に取り組んでいます。そのため、受験の際にも、研究したいテーマを提案していただくスタイルをとっています。
- ゼミは本郷キャンパスで行っています。海外からの滞在研究者を多く受け入れています。彼らは柏キャンパスに滞在していますが、合同でのミーティングも行っています。そのため国際的な環境です。
- 毎週金曜にラボミーティングを行っており、月1回は対面です。
- 修士論文では1本の英語論文、博士論文では3本程度の英語論文出版を目指します。面談希望の前に本研究室から出版されている論文に目を通し、参考にしてください。  
<https://member.ipmu.jp/hiromi.yokoyama/main.html>
- 研究のために英語論文を大量に読む必要があります。最近ではウェブごと翻訳が可能になりましたが（右クリックで「日本語に翻訳」）、いずれにしても論文執筆も含めて一定の英語力は必要です。
- 修士課程は入学後に研究法の講義があり自学します。事前に統計処理ができることが望ましいです。

皆さんの挑戦をお待ちしています

